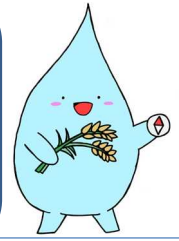


みずきたたより

— かしこく やさしく たくましく —

第2号

瑞穂野北小学校
令和7年5月13日
発行者 阿久津 浩久



マスコットキャラクター
ミズくん

凡事徹底(ばんじてってい)

新年度も1か月が過ぎ、ゴールデンウィークも過ぎ、本格的に学校生活のリズムづくりとなります。

学校では年度当初に「北っ子 学習のきまり」や「瑞北小の一日」などを配布し、学習面や生活面における学校でのルールを確認しています。「あいさつや返事をする」、「時計を見て行動し、時間を守る」などの基本的なことから、「次の時間の用意をしてから休み時間にする」、「トイレは休み時間の間に行く」、「廊下を走らない」など、学校ならではの約束事もあります。

しかし、例年この時期になると慣れからのゆるみが見られ、ルールを自分なりに解釈し、都合のいいように行動している様子が見られてきます。例えば、話をしないとされていてひそひそ話ならいいだろう、とか、業間時間いっぱい遊んだから今トイレに行ったら授業に遅れてしまうけれど、まだ休み時間なのだからいいだろう、とか、などなど…。

凡事徹底とは、何でもないような当たり前のことを徹底的に行うという意味の四字熟語です。

本校の児童指導では、当たり前のことを当たり前にできる児童の育成を掲げています。もちろん、それは大人でも難しいことであるのは、筆者も日々自問自答しているところですが、目指す児童像に迫るためには、次の2点が大切だと思っています。

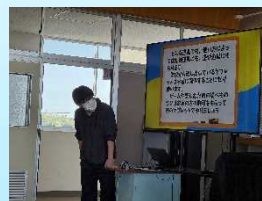
1 点目は、『自分の評価は他人が決めるもの』だということです。ただし「自分の評価=自分の価値」ではありません。しかしながら大人であれば他人の評価で今の立場があることには賛同いただけるのではないかと思います。受験や、入社試験だけでなく、あの人は優しい、頼もしい、我慢強い、などの人物像についても、他人の評価から作られたものです。決まりが守れていないと指摘されたとき、自分の解釈で言い訳するのではなく、指摘を謙虚に受け止め、誰からも「できている」という評価を得られるよう、よりよい自分を目指してほしいと思います。

2 点目は『習慣が人を作る』ということです。古代ギリシャの哲学者アリストテレスからイチローまで多くの著名人が語っていることですが、「継続は力なり」ということに加えて、よい習慣を作り、その習慣を身に付けることが自分の質を高めるのだと思います。例えば「お茶碗にご飯粒を残さず食べる」とか「食べ終わったら食器を片付ける」などの習慣ができている人は何の苦痛もなく当たり前のようにこなしますが、言われてしぶしぶやる人もいます。よい習慣を作ることは簡単なことではありません。良い習慣を作るためには自分の努力はもちろんですが、周りの環境も重要です。良い習慣をもつ手本となる人がいること、良い習慣が認められ、称賛されることで行動や習慣が作られていきます。

まずは何か一つでもいいから、大切なことが当たり前にできるように子供たちを支援し続けることで、自信をもたせ、自分が向上する喜びを味わわせていきたいと思っています。

5月8日(木)の朝の時間に3年生から6年生までが音楽室に集まり、一人一台貸与されているタブレットの使い方について全体指導を行いました。

タブレットが導入されて4年目となり、宇都宮市が目指していた「文具のように」学習に活用することが定着してきました。このことは望ましいことなのですが、日常化が進むほど子供たちは学習とは言えない使い方をするようになり、そのうち、時間にルーズになったり、隠れて遊んだりすることを指導する頻度が増えました。そこで、もう一度タブレットが何のために与えられているのか、正しい使い方とはどういうものか、ということの共通理解を図りました。



引き渡し訓練 お世話になりました 5月1日(木)

引き渡し訓練は「保護者の児童を確実に引き渡す」ことが目的です。本校の場合、児童数が少ないことから目的を一步進めて「どのような状況でも混乱なく児童を保護者に引き渡す」ことができるよう、様々な状況を想定して実施させていただいています。昨年度は大震災の交通マヒを想定した訓練でしたが、今年度は、昨今の災害でも最も頻度が懸念される「雷やゲリラ豪雨」を想定した引き渡し訓練を実施しました。



全ての児童を保護者の皆様が車で迎えに来るという初めての設定で、様々な状況を想定し、試行錯誤しながら計画を練りました。皆様のご理解とご協力のおかげで、1時間ほどで無事に完了することができました。実施後には職員全体で課題を整理するとともに、保護者の方からも貴重なご指摘もいただきましたので、今後の改善に生かしていきたいと思います。お世話になりました。

五月晴れの下で～田植え～ 5月8日(木)

今年は清々しい天気の下で田植えができました。田崎様から植え方をご指導いただいた後、前日に結成した縦割り班ごとに活動します。



はじめに3・4年生がお手本を示し、続いて1・2年生が挑戦。1年生は初めての田植えでしたが、深めの泥に足を取られながらも転ばないように踏ん張って一生懸命稲を植えていました。上級生においては、戸惑っている下級生を優しく支え、声をかけて励ましている頼もしい姿が随所に見られました。実は、田植えの時間よりも手足を洗うほうがずっと時間がかかるのですが、お忙しい中ご協力いただいたボランティアの皆様のおかげで、無事きれいになりました。大変お世話になりました。秋の収穫が今から楽しみです。

